

6月に入り、梅雨の足音が聞こえる季節がやってきました。  
九州南部地方では、5月31日に梅雨入りが発表され、平年通りの梅雨入りとなりました。  
平年通りであれば、九州北部地方・四国地方は6月5日頃。中国地方・近畿地方は6月7日頃。  
東海地方・関東甲信地方は6月8日頃。北陸地方・東北部地方は6月12日頃。東北部地方は6月14日頃に梅雨入りしているようです。

ジメジメする日がやってきますが、そこを日本の四季としてとらえて、イライラしない  
楽しめる環境を整えていきたいですね！

それでは機構メールマガジン『新技術情報』第382号をお届けします。

業務に、Tea Breakにどうぞご活用ください。

◆◆◆トピックス◆◆◆

■インフォメーション

- ・今週はありません

■機構の動き

- ・今週はありません

■Tea Break

- ・新しい時代を迎えて（ロートル侍さんからの投稿です）

■研究成果のおさらい

- ・下水道由来のアンモニアの有効利用に関する調査
- ・下水処理場におけるエネルギー戦略検討

■ピックアップ！機構情報

- ・第378回技術サロン  
（埼玉県下水道局の今後の展開  
～経営マネジメント目標とストックマネジメント計画～）

■はしわたし

- ・今週はありません

■国からの情報

- ・5/31付下水道ホットインフォメーション

---

機構の行事予定

---

○第 382 回技術サロンを開催します！

日 時：令和元年 6 月 13 日(木) 16:00~17:00

場 所：機構 8 階 中会議室

講演者：国土交通省 国土技術政策総合研究所 下水道研究部

下水道エネルギー・機能復旧研究官 高村 和典氏

テーマ：省エネ技術導入による下水処理場の電力消費量削減効果の検討（仮）

※詳細及び参加申し込みはこちら

<https://www.jiwet.or.jp/salon382>

○技術マニュアル活用講習会を 6/21(金)東京、6/25(火)大阪で開催します

下水道機構では民間企業と共同で研究した新技術を紹介するため、技術マニュアル活用講習会を開催しています。新技術を採用する上で、その内容をより深くご理解いただき、有効に活用しやすいよう、講習会に参加する皆様に技術マニュアル等を配布し、研究担当者がパワーポイント画面により図・表を多用して分かりやすく説明しています。多数の皆さまのご参加をお待ちしております。

対象技術マニュアル等：

「自立管 製管工法（ら旋巻管）に関する技術資料」

「下水道管路管理の包括的民間委託推進マニュアル（案）」

「下水道管きょ内の水位予測機能を備えた管きょ内水位把握システムに関する技術資料」

「効率的・効果的な浸水対策に資するポンプゲート設備に関する技術マニュアル」

「蒸気間接加熱型汚泥乾燥機技術マニュアル」

「低圧損型メンブレン式散気装置の導入マニュアル」

「下水道由来肥料の利活用マニュアル」

「下水処理場におけるエネルギー自立の可能性調査研究

～ゼロ・エミッションを目指して～技術資料」

プログラムはこちら

<https://www.jiwet.or.jp/2019manual-program>

【東京会場】令和元年 6 月 21 日（金） 10：00～16：50

（会場）下水道機構 8 階会議室

【大阪会場】令和元年 6 月 25 日（火） 10：00～16：50

（会場）大阪科学技術センター401 会議室（大阪府大阪市西区靱本町 1-8-4）

【参加費】2,000 円（官公庁、公共団体等は無料）

※1. CD 版の技術マニュアルとテキストを配布いたします。

※2. 参加費は、銀行振込でお願いいたします。振込先は WEB 申し込み時の「参加証」

に記載致します。当日会場での参加費お支払いはできませんのでご了承ください。

【定員】東京会場 80 名、大阪会場 120 名

※先着順となります。

※詳細及び参加申し込みはこちらから

→<https://www.jiwet.or.jp/manual-seminar2019>

。○。

●新しい時代を迎えて（ロートル侍さんからの投稿です）

ここ数年、面倒くさがりの性分と忙しさにかまけて、運動をするということをすっかり怠って過ごしてきました。自宅と職場の往復くらいしか体を動かさなくなったので、毎年の健康診断でもメタボ予備軍の警告を受けようになり、また体力の低下もひしひしと感じる何とも情けない状態になってしまいました。生活習慣病という言葉が日常的に飛び交う昨今、健康で体力のある資本（体）が必要だと強く感じながら、週末くらいは運動しなければと思ってはいるものの、億劫がって来週こそはと、先送りに。そもそも生活改善の運動の程度もわかっていなかったのも、少し調べたところ、筋肉痛や疲れが出るような辛いレベルの運動は必要なく、15分～20分程度の軽く汗ばむ程度歩くことでもよいということが判明。元号が変わって新しい時代がスタートしたこともあるので、これをきっかけに自分も生活改善の元年にしよう一念発起することに。季節も暖かくなってきたので、まずは週末、自宅近くの低山ハイキングコースを利用して、毎日の業務に力を注げる健康的な体作りに取り組もうと思っている今日この頃です。

。○。

研究成果のおさらい（機構の研究成果（要約版）をご紹介します）

。○。

・下水道由来のアンモニアの有効利用に関する調査

国土交通省では、省エネ・創エネ対策の一環として下水道資源の有効利用を推進しており、国土技術政策総合研究所では、その具体的な取り組みの1つとして、消化汚泥脱水分離液に含まれる高濃度のアンモニアの回収及び利用方法の検討を行っています。本調査では、下水道由来のアンモニアの回収及び利用方法を検討するため、アンモニアの回収及び利用方法に関する情報収集を目的として、ヒアリング又はアンケート調査を実施しました。

→ <https://www.jiwet.or.jp/2019-06-03-ab1>

・下水処理場におけるエネルギー戦略検討

下水処理場のエネルギー自立化に向けた戦略策定を支援することを目的として、35ヶ所の下水処理場を対象としたエネルギー消費状況に関する問診票調査を行い、既知の省エネ・創エネ技術を導入することにより達成可能なエネルギー自立化率について評価しました。また、支援・誘導施策として、焼却炉の交付金対象要件に設ける性能指標の作成と、機器の省エネ効果を最大限に発揮させるための運用方法（スマートオペレーション）に関するパンフレットの作成を行いました。

→ <https://www.jiwet.or.jp/2019-06-03-ab2>

。○。

ピックアップ！機構情報

（下水道機構情報 Plus+ 16号の中から記事をご紹介します）

。○。

・第378回技術サロン

（埼玉県下水道局の今後の展開

～経営マネジメント目標とストックマネジメント計画～ 若公 崇敏氏）

埼玉県の流域下水道は昭和41年から事業を開始し、一昨年50年を迎えました。平成22年度に公営企業会計を全部適用し、下水道局が設置されました。

埼玉県の全市町村数は63で、そのうち60市町で下水道事業が実施されています。県下の流域下水道処理区域は8流域（9処理場）で、処理人口は県人口のおよそ3/4である544万人と、流域下水道が担う役割が大きい都道府県の一つです。

→ <https://www.jiwet.or.jp/2019-06-03-quarterly1>

WEB版機関誌下水道機構情報Plus+ 16号（最新刊）はこちら

<https://www.jiwet.or.jp/newsletter16>

下水道機構情報 Vol. 13 No. 28 2019. 1（最新刊）はこちら

<https://www.jiwet.or.jp/quarterly28>

下水道機構情報 Vol. 13 No. 27 2018. 7はこちら

<https://www.jiwet.or.jp/quarterly27>

下水道機構情報はこちら

<https://www.jiwet.or.jp/quarterly0>

ニューズレターはこちらから

<https://www.jiwet.or.jp/newsletter0>

審査証明技術全体はこちら

<https://www.jiwet.or.jp/examination0>

---

。 。 。 。

はしわたし（みなさまの情報交流の場です）

---

。 。 。 。

＼(^-^)/皆さまからの情報提供をお待ちしております(^-^)/

提供はこちらまで→ [jiwet@jiwet.or.jp](mailto:jiwet@jiwet.or.jp)

※テキストは原則400字以内。写真等はA4版にして原則2ページ以内。

なお、お寄せいただいた情報はそのまま掲載することを基本としますが、掲載の可否は機構にて判断させていただきます。

---

。 。 。 。

国からの情報

---

。 。 。 。

↓ここからは、国からの下水道ホットインフォメーションを掲載しています。

=====

下水道ホットインフォメーション（2019. 5. 31の情報です）

配信元：国土交通省 水管理・国土保全局 下水道部下水道事業課

企画専門官 山縣弘樹

6月からの出水期を前に、各地でポンプの点検や防災訓練、市民と連携したマンホールトイレの設置訓練などが行われています（参考情報）。

また、渇水の地域もあります。下水処理水は、全国で年間2億m<sup>3</sup>弱が再利用されている「貴重な水資源」でもありますので、渇水にお悩みの自治体では、いざという時に活用できるよう、ご検討いただければと思います。（ヘッドライン参照）

さて、「プノンペンの奇跡」という言葉をご存じの方も多いと思います。先進的に国際展開に取り組む北九州市が、内戦で疲弊したカンボジアの水道施設の整備を1990年代から継続的に支援した結果、水道普及率が9割に達したことを指すものです。「飲める水」が当たり前の日本ですが、途上国では、水を飲むことすらままにならず、

生活習慣や文化が違う中で、支援する側もされる側も苦労も多いと思いますので、まさに「奇跡」ですね。

5月30日の朝日新聞朝刊（全国版16面）に、次は下水道の整備に取り組むため、北九州市上下水道局からプノンペンへJICA長期専門家として派遣された平野哲さんが紹介されています。是非ご覧ください。

☆（2030 SDGsで変える）「安全な水」を広める使命 <5/30 朝日新聞>  
[https://www.asahi.com/articles/DA3S14035184.html?iref=pc\\_ss\\_date](https://www.asahi.com/articles/DA3S14035184.html?iref=pc_ss_date)  
（ウェブでは会員限定記事です）

★★★★★ 今週のヘッドライン ☆☆☆☆☆

○ 下水再生水等の活用の推進について（流域管理官）

○ 下水道の魅力を語る60分！ GKP総会記念講演に北河大次郎氏（6/17）（GKP）

---

---

○ 下水再生水等の活用の推進について（流域管理官）

令和元年5月30日付け事務連絡において、「下水再生水等の活用の推進について」を  
発出いたしました。

下水道は都市内の汚水、雨水を集約しており、その処理水（下水再生水）や雨水を  
用途に応じた水資源として活用することにより、健全な水循環の維持、回復や資源の  
有効活用にご貢献することができます。

また、近年取水制限が行われた地域では渇水問題が顕在化しており、下水再生水の  
活用が期待されます。

事務連絡および下記の参考資料もご参照いただき、下水再生水等の一層の活用を推進  
していただくようお願いします。

（参考）

■ 下水処理水の再利用水質基準等マニュアル

<http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha05/04/040422/05.pdf>

■ 渇水時等における下水再生水利用事例集

<http://www.mlit.go.jp/common/001199251.pdf>

○ 下水道の魅力を語る60分！ GKP総会記念講演に北河大次郎氏（6/17）（GKP）

いつものまちが博物館になる！？

オンライン土木博物館「ドボ博」の館長として、土木の知られざる世界を独自の  
視点から発信し続けている北河大次郎氏。

GKPは、6月17日（月）の総会記念講演に北河氏をお招きし、「地域資産としての  
下水道の魅力」についてお話を伺います。

日本を代表する文化財専門家の眼に、下水道の魅力はどう映っているのか？

また、その魅力を多くの方にも知ってもらうためには、どんな発信が必要となるのか？

GKP会員以外の方もご参加いただける貴重な機会です。お聴き逃しなく！

【令和元年度下水道広報プラットフォーム（GKP）定時総会 記念講演】

日 時：令和元年6月17日（月） 16時30分～17時30分

場 所：（公社）日本下水道協会 中会議室（5階）

講師：北河大次郎氏

テーマ：「地域資産としての下水道の魅力」

申込：日本下水道協会 広報課

e-mail: info@gk-p.jp

※GKP 会員以外の方も無料でお聴きいただくことができます。

申込はメールで6月10日（月）まで受け付けます。

---

---

#### 【参考情報】

◆「水道料金値上げ」住民が選択。2060年にタイムスリップして考えた街の課題  
<5/31 Business Insider Japan>

<https://www.businessinsider.jp/post-191641>

◆設備投資を抑え、9億2千万円減 佐賀市バイオマス事業 <5/31 佐賀新聞>

<https://www.saga-s.co.jp/articles/-/381080>

◆国内最大の下水処理施設、デリーで整備へ <5/31 NNA. ASIA>

<https://www.nna.jp/news/show/1909111>

◆大村湾の水質改善進む 下水処理普及でCOD値クリア <5/30 長崎新聞>

<https://www.nagasaki-np.co.jp/kijis/?kijiid=506115713573405793>

◆郡山市 浸水対策の下水道の工事現場を公開 <5/30 日テレ NEWS24>

<http://www.news24.jp/nnn/news16272946.html>

◆岡山市 下水道災害対策室発足 <5/29 日テレ NEWS24>

<http://www.news24.jp/nnn/news16414592.html>

◆【宮城県と東京都】水道事業連携で合意 ノウハウ共有し、  
災害時の相互的な人的・物的支援へ <5/29 日刊建設通信新聞>

<https://www.kensetsunews.com/web-kan/324863>

◆感度良好の5G変形アンテナ、AGC・ドコモやKDDIが開発

<5/29 日経テクノロジーオンライン>

<https://tech.nikkeibp.co.jp/atcl/nxt/news/18/05123/>

◆ホーチミン：下水道更生事業で日本の「SPR工法」を採用

<5/29 VIETJO ベトナムニュース>

<https://www.viet-jo.com/m/news/social/190528193657.html>

◆【夏休み2019】水の大切さ知る、親子向け東京下水道施設見学ツアー

<5/28 リセマム>

<https://resemom.jp/article/2019/05/29/50746.html>

◆ドバイの最新大型モール、コンセプトは「自然」 <5/28 CNN.co.jp>

<https://www.cnn.co.jp/style/design/35137683.html>

◆抗生剤の汚染、世界の河川で深刻化 英大学が実態調査 <5/28 CNN>

<https://www.cnn.co.jp/world/35137622.html>

◆ヤギさん除草 磐田の下水処理施設 <5/27 中日新聞>

<https://www.chunichi.co.jp/article/shizuoka/20190528/CK2019052802000022.html>

◆足元にもルパン 浜中にマンホール蓋登場 <5/27 北海道新聞>

<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/309234>

◆【セミナーご案内】マイクロプラスチック汚染と生分解性プラスチックの最新動向

6月18日(火)開催 主催:(株)シーエムシー・リサーチ <5/27 産経ニュース>

<https://www.sankei.com/economy/news/190528/pr1905280047-n1.html>

◆マンホールトイレや非常食作り 災害に備え住民体験学習 <5/27 佐賀新聞>

<https://www.saga-s.co.jp/articles/-/379625>

◆マンホールトイレ、災害に備え 熊本市が城西小に設営 <5/26 熊本日日新聞>

<https://kumanichi.com/news/1054806/>

◆組み立て式マンホールトイレ、矢本西小の運動会で使用 防災意識高める <5/26 河北新報>

[https://sp.kahoku.co.jp/special/spe1000/20190526\\_08.html](https://sp.kahoku.co.jp/special/spe1000/20190526_08.html)

=====

発行元：公益財団法人 日本下水道新技術機構 企画部

〒162-0811 東京都新宿区水道町3番1号 水道町ビル7F

TEL 03-5228-6511(代表) FAX 03-5228-6512

ホームページ：<https://www.jiwet.or.jp/>

○お伝えしたい情報をお持ちの方はこちらから → [jiwet@jiwet.or.jp](mailto:jiwet@jiwet.or.jp)

○メルマガ配信登録についてのお問い合わせはこちらから

→ [jiwet@jiwet.or.jp](mailto:jiwet@jiwet.or.jp)

○メルマガ配信停止はこちらから

→ <https://www.jiwet.or.jp/member-mag-unsubscribe>

○ニューズレターはこちらから

→ <https://www.jiwet.or.jp/newsletter0>

○はしわたしのバックナンバーはこちらから

→ <https://www.jiwet.or.jp/hashiwatashi>

○ゆいまーるのバックナンバーはこちらから

→ <https://www.jiwet.or.jp/publicity/yuimaru>